



陽光園東館 渕田 紗貴

2024年10月に社会福祉法人千寿会へ入職し、現在、陽光園東館で活躍している渕田紗貴さん。介護職員として、利用者様に寄り添う心を大切にしながら、日々の仕事へ真摯に取り組んでいます。そのような渕田さんの業務に対する思いや、今後の展望を伺いました。

● 入職のきっかけを教えてください。

2024年の9月に宇城市へ引っ越したのを機に、周辺で介護職の求人を探していたとき、陽光園東館を見つけました。特別養護老人ホームで働いた経験はありませんが、前職は訪問介護員として務めていたため、これまでの知識を少しでも活かせるのではないかと考えたのです。

早速見学へ行ったとき、まず耳に飛び込んできたのは、楽しそうな利用者様と職員の笑い声。一緒になって笑い合う姿を見て、職員同士の仲の良さや、利用者様との距離の近さを感じることがで

きました。それに陽光園東館にはダイフクという名前の猫がいます。とても人懐こくて、利用者様のお部屋に入りベッドで寝ていることも。実は猫好きだということもあり、このような和やかな環境の職場の一員として働けたらと思い、入職を決意しました。

● 入職後、実感したことはありますか。

職場の雰囲気は、入職前に感じた通りでした。入職当初から職員の方々が、私を「渕田さん」ではなく、ニックネームで「ふっち」と呼んでくださるのも、とても嬉しく感じています。親しみを込めて接してくださる優しさに、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。

今では利用者様とのコミュニケーションも少しずつ取れるようになってきました。お声がけしても認識していただけなかった利用者様が私の顔を覚えてくださって、「ああ、あなたね」と言ってく



ださるようになったり、普段は厳しい利用者様の入浴を介助した際、ほめてくださるようになったり。これからも、日々勤める中で経験を積みながら、ステップアップしていきたいと思っています。

● 業務へ取り組む上で、注力していることをお聞かせください。

利用者様の目線に合わせて会話をするよう意識しています。座っていらっしゃる場合は、自分も椅子を持ってきたり、しゃがんだりして、目線を合わせてお話をします。ほかに、相手の話を傾聴することも大事にしています。お話が終わるまで、よく聞いて、しっかりうなずく。中には不安や戸惑いを抱えやすい方もいらっしゃいますし、動き方や話し方にも気を配っています。それぞれに合わせた対応を心がけたとき、目に見えて落ち着く様子がわかったため、いつも欠かさず実践するようにしています。

また、昔の思い出話を聞いたり、施設内に飾ってある花と一緒に眺めたり、ダイフクを連れてきて「可愛いですね」など会話しながら、気持ちもくみ取っていく。そのようにして陽光園東館での生活に楽しさを感じていただけるよう、これからも努めていきたいと思っています。

● 仕事に励む一方で、休日はどのように過ごしていますか。

休みの日は、熊本市内へ買い物に出かけたり、温泉巡りをしたりしています。福岡県や大分県まで足を延ばす日もありますよ。リラックスできる休日を過ごす、仕事へのやる気が違います。「今日も仕事を頑張ろう」と思えますね。これからもプライベートの充実を図り、生活にメリハリをつけて、仕事に邁進したいと思っています。

● 最後に、渕田さんが目指すところを教えてください。

介護職に携わるようになったときから、ずっと念頭に置いていることがあります。

「丁寧に、正確に、手を抜かない」。

日々の業務すべてにおいて、利用者様やご家族様と接するときはもちろんのこと、どのタスクに対しても確実に取り組む姿勢が重要だと思っています。今後もずっと変わらぬ姿勢で仕事に向き合い、スキルを磨き自分の成長につなげていくつもりです。

信念を胸に、日々の仕事へ勤しむ渕田さん。これからもその活躍から目が離せません。



この場面、
どう動く？

ベテラン看護師が教える 現場の判断力

私たちは仕事柄、緊迫した状況や、迅速な判断を迫られる場面に直面することも珍しくありません。焦らずに冷静に、利用者様にとって最善の判断を下すためにすべきことは何か。ベテラン看護師の谷口さんに伺いました！

私が紹介します！



コミュニティハウス
悠優かしま看護師
谷口 志保さん

迷った末に決断を下した場面

異変があればご家族様などに相談して判断

当施設は病院ではないため、一般の看護師の方とは考え方が異なります。利用者様に症状が出た場合、最初に相談するのは主治医よりもご家族様またはキーパーソン。私が判断するというよりも、常に連携を取って相談しながら決めていくことがほとんどです。日頃から利用者様に寄り添い様子を見ることで、その症状が一時的なものなのか、大事に発展するものなのか見極めることも大切。例えば認知症の方は、本当は腰が痛いのにお腹が痛いと言えたり、ご自分の症状をうまく人に伝えることができないことがあります。まずは、投薬や医療機関に行く前に、症状はどこから来ているのかを突き止め、症状に対して判断をします。様子を見たり、ほかの職員から情報を得るなどしながら、便秘であれば水分を取るなど対応。症状が改善しない場合は、医療機関の前にご家族様、もしくは主治医に相談します。どちらを優先するかは、そのときの状況次第です。



判断を下す際の基準やポイント

周囲と連携してさまざまな状況を考慮

利用者様の症状は日々違います。個々の情報を把握した上で、投薬を考える前に、できることをスタッフさんとコミュニケーションを取りながら決めることが大切です。腹痛の場合、水分が足りない可能性もあるため、摂取されている水分量を確認し、明らかに不足していれば水分を補給。それによりお通じが出ることもあれば、食事をするなどでお腹が動き始めることもあります。生理現象なども考慮しながら、さまざまな状況を想定して判断することを心がけています。



判断を下すために決め手となる情報

ケアワーカーさんから得る情報が基本

利用者様のことを一番わかっているのはケアワーカーの皆さん。そのため、ケアワーカーの方から情報を集めることが判断を下すときの基本です。利用者様の小さな変化も見逃さず、ケアワーカーの方と綿密に連携し、細かいことも質問できる環境を整えています。また、当施設で旅立たれる利用者様も多いため、ご家族様およびキーパーソンの方たちとのコミュニケーションは本当に大切。看取りの段階にいらっしゃる場合、最終的に判断するのはご家族様で、私たちは判断のしようがありません。利用者様とご家族様などとの関係を大切にしながら情報を集めています。



判断力を磨くための心構えや考え方

若いときは特に高齢者の体の状況への理解が難しく、想像することしかできません。高齢者の考え方や認知症の方たちとの関わりも含めて、周囲のベテランの方々に声をかけ、アドバイスをもらってください。その上で自ら考え、学ぶ姿勢が大切だと思っています。

元気職員に聞く

仕事を楽しむコツ！



陽光園栄養課
よし やま ちはる
吉山 千晴さん

仕事に楽しさや喜びを見出すコツ

旬を感じる行事食で利用者様を喜ばせたい

利用者様に喜んでいただける食事作りに注力し、嬉しそうな反応を見るたびに喜びを感じています。そのために、昔からあるお正月やお雛様など、四季や旬を味わえる行事食に注力しています。お正月などの伝統行事は、健康や幸せを願うものが多いのが特徴です。私も利用者様の健康を願いながら、栄養課の皆さんと折り紙でサンタさんや節分の鬼の顔を作ったり、梅の花を折って飾ったりしています。利用者様に喜んでもらうためには、「何か少しでもしてあげたい」「喜んでほしい」という気持ちが大切です。栄養課のメンバーで意見を出し合いながら、料理の盛り付けや飾り付けなど、自分たちができることを工夫しながら実践しています。また、楽しみを見出すコツとして、趣味のお菓子作りを楽しんでいます。子どもと一緒にお菓子を作ると元気が出る上に、仕事につながったこともあったのです。2～3年前のバレンタインに、チョコレートパイをベースにした「くまモン」の形をしたお菓子を作りました。利用者様にも食べていただき、嬉しく感じたことが印象に残っています。

花見弁当をつくっています！



おやつ盛り付け中♪



「利用者様の喜びが自身の喜び」と語る栄養士の吉山さん。利用者様の方々の笑顔のために、行事の食事や飾り付けなどに注力しています。優しさあふれる吉山さんの仕事を楽しむコツとは……？

仕事内容

調理、野菜の切り込み、食器洗浄、利用者様への配膳、掃除です。利用者様から「いつも美味しいご飯をありがとうございます」と声をかけていただくと、とても嬉しい気持ちになります。行事食の際には、「すごい！」「美味しそう！」と、利用者様が笑顔になる瞬間にやりがいを感じます。



ひなまつりの行事食



バレンタインにくまモンのお菓子

職員や利用者様とのコミュニケーションのポイント

笑顔で挨拶、自然にコミュニケーション

職員さんには、疑問に思うことはきちんと聞き、何気ない会話をするのを大切にしています。利用者様とのコミュニケーションのポイントは、笑顔で挨拶をすること。「今日のご飯はどうでしたか？」「味は濃くなかったですか？」といった会話がとても大事なのです。食事をしているところは、たまにしか見ることができないため、食器を下げに行ったときに、お声がけするようにしています。

今後の目標と一緒に働く方へメッセージ

力を合わせて、もう一度食べたいメニューを作る

「来年も食べたい」と思っていただけの行事食を作れたら、本当に嬉しい限りです。陽光園にはリクエストメニューもあるため、リクエストしてもらえる食事を作りたいと思います。そのために、栄養課の皆さんと話し合いながら、今後の工夫について考えていくつもりです。栄養課の皆さん、いつもサポートしていただきありがとうございます。これからも力を合わせて、利用者様に喜んでもらえる食事作りを頑張っていきたいと思います。